

2023年 3月30日 第2513回例会
3月第5例会

RIテーマ:IMAGINE ROTARY
「イマジン ローター」

本年度会長テーマ
「原点回帰－親睦と職業奉仕－」

「水 と 衛 生 月 間」

◆ 会長時間 ◆

新原会長



食事時間に恐縮ですが、「水と衛生月間」に因み、水洗トイレの話をしていただきます。

私が物心つき始めた頃が、水洗トイレが一般家庭に普及し始めた頃だと思います。当時住んでいた家は社宅でしたが、水洗トイレに取り換える工事があったのを記憶しています。同じ社宅で非水洗のトイレにはまって死にかけた記憶もありますので、ちょうど1964年の東京オリンピックの頃です。ネット上の情報では、日本の水洗トイレの普及は1920年頃からとなっていますが、地域ごとの下水道の整備に伴って拡大したのだと思います。イギリスでは産業革命後、大気と水質汚染が著しく、19世紀中盤にコレラが流行しました。政府は国を挙げて下水道整備を進め、ほぼ現在の物と同じ形の水洗トイレも急速に普及したそうです。ロータリーの歴史を語るとき必ず登場する「シカゴの公衆トイレ」は、水洗トイレだったのでしょうか？ちなみに世界最古の水洗トイレは、イラクで約4700年前の遺跡の中から発見されたもので、水路を利用したものだそうです。

☒ 物故会員に黙祷

広島西南RC 大山 修司（おおやま しゅうじ）会員（あすみあ土地家屋調査士事務所 代表）が3月21日（火）にご逝去されましたので、謹んでお知らせいたします（享年52歳）。

☒ 三浦 信夫君 退会ご挨拶、バナー贈呈

このたび、広島西RCを退会させていただくことにいたしましたので、ご挨拶させていただきます。

私は、昭和56年4月4日に入会させていただきました。紹介者は三島 哲男さんと吉田 愷忠さんです。以来41年になりました。

入会以来、三島さん、吉田さんをはじめ、大変多くの皆様と長い間お付き合いいただき、「サービス」について多くの勉強をさせていただきました。その結果、会員の皆様、お客様、社員の皆様から御協力をいただき、52年間の仕事期間を無事勤めることができたと感じております。

退会後も一日一日を楽しく生きてゆこうと思っております。皆様にお会いできることを楽しみに暮らしたいと考えております。今日まで本当にありがとうございました。



☒ ロータリー財団「マルチプル・ポール・ハリス・フェロー襟ピン」の伝達



第3回 村上 健一 君



第7回 新原 靖 君

● 会務報告 古本幹事

☒ 新会員候補者の照会を配布しておりますので、よろしくお願いいたします。

● 委員会報告

※ プログラム・出席委員会

出席報告 井原君

本日 (3月30日・木曜日)
会員数 87名 出席者 70名
欠席者 17名 ご来客 2名
ご来賓 1名 ゲスト 1名
計 74名
4週前の例会2023年3月2日・木曜日
出席率 100%



※ 吉田(大)次年度幹事

皆さんのボックスに「次年度委員会編成にともなう細則改正手続き」について配布しておりますのでご確認ください。また4月13日の例会におきまして改正決議を行いますのでご協力をお願いします。

※ 国際交流・姉妹クラブ友好委員会 田島委員長

先日 台南RCから、姉妹クラブ締結同意書が送られてきましたので、新原会長、国際奉仕部門 川妻理事、国際交流・姉妹クラブ友好委員会委員長の私がサインをし、間もなく返送します。これにより、3年に1度行われる姉妹クラブ再締結の手続きは終了しました。



● 同好会報告

☒ バイオレッツ 土井(英)世話人

3月19日(日)に、ガバナー杯で2試合戦ってまいりました。

1回戦は去年と全く同じ相手、呉東RC。柴田マネージャーの「頑張りまっさー！」の掛声で始まり、結果20-5で今年も圧勝でありました。ちなみにMVPは八條君でした。

2回戦は呉南RC。プレイボール後すぐに6点

入れて、“こりゃいただき〜！”と思ったのも束の間、その裏9点入れられて雲行きが怪しくなってきました。最終回に追いついたもののその裏、ツーアウトからサヨナラ負けとなってしまいました。

来年のガバナー杯は3月16日開催に決まりました。引き続き、ご声援よろしくお願いいたします。



● スマイルボックス SAA 柴田委員長

☺ 三浦君 (自主申告・¥41,000-)

広島西RCの皆様、41年間の数々の楽しい時をありがとうございました！

☺ 森信君 (自主申告・大枚)

このたび、東京にいる次男 惇平(じゅんぺい)が結婚いたしました。

大学時代の短期留学で知り合って9年の付き合いの末、めでたくゴールインです。美人の誉れ高い秋田出身の娘さんですが、来年3月晴れて新潟での学生生活が終わり、東京に出て同居となるようです。広島で介護の仕事を引き受けてもらいたいと思っておりましたが、愛の方が強かったようです。今後の二人の幸せを祈りたいと思います。

☺ 穴戸君 (自主申告・大枚)、瀬崎君

長女 葵(あおい)が4年間の東京での大学生活を終え、来月より広島で、社会人第一歩を歩み始めます。小さい頃より鉄道好きの娘は鉄道関連の就職先を探していましたが、瀬崎君の後押しがあったかどうかわかりませんが、来週より広島電鉄の一員になることが決まりました。

広島電鉄の瀬崎君もご出宝ください。

☺ 大本君 (自主申告・大枚)

3月20日に次男夫婦に第三子が生まれました。孫の健やかな成長を願って出宝します。

☺ 八條君 (自主申告・ダブル)

先日行われましたガバナー杯で4番サード

で出場させていただきました。

スリーベースヒットや取れませんでした。ダイビングキャッチ、リリースピッチャーなどをしたおかげか、MVP賞をいただくことができました。来年は右肩のインナーマッスルを鍛えて、豪速球を投げられるようトレーニングしたいと思います。



本日は100万ドルの食事例会です

● 卓話予告

日時	テーマ
4/13(木)	「母子の健康月間」 子供達へのワクチン 井原 俊彦 君

■ 国際奉仕部門クラブフォーラム

スケジュール

- 13:00～ 卓話「世界の多極化と国際協力の課題」
ジャーナリスト 脇 祐三 氏
- 13:40～ 質疑応答
- 13:50 解散



世界の多極化と国際協力の課題

ジャーナリスト
脇 祐三 氏

ウクライナ危機と米中対立で世界の分断と多極化が進む

- ロシアのウクライナ侵攻後に世界の「多極化」が進んだ。G7、EU、NATOなどGlobal Westと呼ばれる国々の結束は強まったが、連携は西側諸国の枠を超えて広がっているわけではない。
- Global Southと総称される新興国・途上国の大半は、ロシアの侵略を支持しないが、米欧が主導する対露制裁には加わらず、中国との対立も避ける。インドが代表する形で発言力を強める。
- 米ロや米中のような大国の対立は「中間にい

るミドルパワーに脅威だけでなく機会も提供」(Financial Times 社説)。インドはプーチンの戦争を批判しつつ、ロシア原油の輸入を大幅に増やす。

- 中国と向き合う際も、インドやASEANなどとの協力が重要に。

NATOとロシア、ウクライナの位置関係



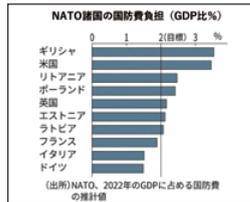
●ロシアによる侵略は国際法に反する容認できない行為。ただし、冷戦終結後の30数年の間にNATOが東に拡大し続け、ロシアが必要とみなす緩衝地帯が狭まった経緯も認識する必要あり。

- NATO諸国のウクライナへの兵器供与拡大に対抗する形で、ロシアはベラルーシに戦術核兵器を配備すると、プーチンは説明。核兵器の数は同じでも、配備の場所が西欧により近づく。

長期化するウクライナ危機

- 22年5月、ウクライナへの軍事支援の目的を問われたオースティン米国防長官は「ロシアを弱体化すること」と、言わずもがなの説明。ロシア側が「ウクライナを代理人にしてNATOがロシアを攻撃している」という屁理屈を言いやすくなった。
- 米欧はウクライナが負けないように軍事支援。和平の是非はウクライナが決めるべき問題。国民の大半は侵略したロシアを許さず。ゼレンスキー大統領は、クリミアも含むすべての領土からのロシア軍の完全排除めざす。譲歩は政治的に難しい。
- ロシアは、朝鮮戦争と同様の、支配地域の境界を休戦ラインとする合意を探る。前提として東部2州とクリミアにつながる南部回廊の実効支配の固定化。戦略目標はNATO側との緩衝地帯の確保。国内の反戦運動なお限定的、政権は長期戦の構え。

欧州と日本の安全保障意識が強まる



- エネルギーをロシアに依存したドイツも危機に反応、ショルツ首相は国防費をGDPの2%に増やす決断。第2次

大戦後の軽武装・平和主義から転換。

- ポーランドやバルト3国の対ロシア強硬論。軍事で中立だったフィンランドとスウェーデンはNATO加盟を申請。
- 岸田内閣は国家安全保障戦略など3文書を策定。5年間で防衛力の緊急強化めざす。敵基地攻撃能力など抑止の方法論と防衛力強化の財源で論議続く。

結束強める西側諸国（グローバルウエスト）

- 同盟を「米国が損する関係」と見なしたトランプ政権から同盟重視のバイデン政権に交代、冷戦後の欧州の秩序を覆すロシアのウクライナ侵攻で米欧の同盟・NATOは再び結束を強める。
- ロシアに対する経済制裁は、欧州連合（EU）と米欧日の主要7カ国（G7）が主導し、オーストラリアなども加わる。欧米に日豪などを加えた広義の西側諸国（Global West）の連携進む。
- 中国の対外強硬姿勢やロシアとの連携に対し、経済的利益から中国に接近していたEU諸国、英、豪などが中国に批判的に。英、独の艦艇派遣や、NATOのアジア安保関与を日本は歓迎。
- 中国にらむ日米豪印の協力の枠組みQUAD（インドは安保協力には慎重だが）や豪英米の軍事協力の枠組みAUKUSが発足。

中国・ロシアの連携どこまで



「中露の枢軸」と呼ばれることもあるが、中国とロシアは同盟関係ではない。そもそも中国には同盟国がない。ただし、習近平政権が米欧中心ではない世界秩序をめざし、米国との長期にわたる軍事と経済の競争に備えるためには、ロシアはなお利用価値のあるパートナー。

- 中国も米国との決定的対立は避け、兵器の対露供与には慎重だが、原油やガスの大量購入でロシア経済を下支え。半導体や電子部品ではロシアに不可欠の供給者。G7やEUの制裁を受け、西側企業の撤退が続いたロシア市場では、自動車でも中国の存在感が強まる。

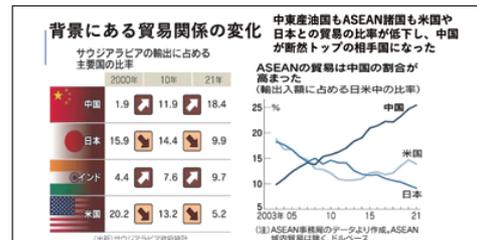
独自に動く新興国・途上国（グローバルサウス）

- インドもインドネシアも、サウジアラビアなどアラブの産油国も、米中、米露の対立が続く中で、どちらかの側に付くことはない。どちらの側とも厳しい対立を避け、うまく付き合っ、自国の経済的利益と安全を確保しようとする。
- バイデン米大統領が言う「民主主義vs専制主義」の二極化ではなく、独自判断で動く国々が大多数を占める世界秩序の多極化。
- グローバルサウスと呼ばれる国々に統一した考えがあるわけではないが、インドが多くの国の声を代弁する国として行動。インドは人口で中国を抜き、GDPの規模で旧宗主国の英国を抜き、自動車販売台数で日本を抜き、エネルギー消費は米中に次ぐ3位。
- 今年、G7諸国のほか中国、ロシア、トルコ、サウジ、インドネシアなどもメンバーのG20の議長国をインドが務める。

バイデン流「二元論」外交の不毛

中東などで米国の影響力が逆に低下

- バイデン政権は内政で民主党を「民主主義を守る勢力」、野党・共和党のトランプ支持派を「民主主義を壊す勢力」と位置づけ。それとオーバーラップさせて世界を「民主主義と専制主義」に色分け。「民主主義サミット」を開くが、民主化を広める効果は乏しい。
- バイデン外交では、米中、米露の対立が深まってから、中露以外の国々を「自分たちの側か、中露の側か」と区分けする傾向が目立つ。22年秋にOPECプラスが原油の減産を決めると、バイデン政権は「サウジアラビアがロシア側に付いた」と非難。
- サウジは「減産は純粹に経済的理由」と反論、国際関係について「ゼロサムゲームのような考え方はしない」と指摘。親米と見なされがちだったサウジは、中国の仲介でイランと関係正常化の合意。



東南アジアから見た国際関係

- 22年6月、岸田首相はシンガポールのアジア

安全保障会議で「ウクライナの現状は明日の東アジアかもしれない」と危機感を示し、人権など普遍的な価値と、ルールに基づく国際秩序が重要と強調。主催者は英国際戦略研究所、聴衆の多くは欧米系。講演時期は首相がG7やNATOの首脳会議に出席する直前。西側の視点に沿う話。

- 東南アジアの新聞は「日本の首相が普遍的価値を強調」と報じたが、同じ日の紙面に「なぜNATOがアジアの安保に関与」と疑問視する記事や、QUAD（日米豪印の協力の枠組み）との連携は「我々と利害が一致する時だけにすべし」といった主張も載っていた。
- 過去の欧米の植民地支配や豪州の白人優先主義に、わだかまり残る。米国が中国を牽制するのはOK、自国と中国の対立は避ける。

岸田首相は新興国への認識を強めた

- 今年1月、岸田首相がG7諸国を歴訪中に、インドはまず米国と通商拡大の協議。次いで12～13日にモディ首相が120カ国に呼びかけ、リモートで「グローバルサウスの声サミット」を開催した。
- 岸田首相は1月13日、ワシントンでの講演で、今後の外交課題への対応を、①G7など志を同じくする国々の結束強化 ②グローバルサウスとの関係 ③中心的課題である中国との関係の3つにまとめた。中国と向き合ううえでも、G7の結束と同時に新興国・途上国（特にインド、ASEAN）との協力が重要になるという認識だ。
- 「世界は単一の価値観に収斂しなくなり、様々な特色の国々の力が相対的に増している」「我々の価値観をそのまま押し付けるわけにはいかない。彼らの歴史的、文化的な背景を理解したうえで、ルールに基づく国際秩序という原則を共有することが大事」「正しいと信じる道でも、彼らが背を向けたら課題解決は困難」

台湾をめぐる緊張、北朝鮮の脅威

- 日本の安全保障の当面の大きな焦点は、中国が武力統一も辞さないとする台湾をめぐる緊張。いつごろ中国の台湾侵攻があるのか、可能性は低いのか、誰も断定的なことは言えない。
- 米国の軍幹部や諜報機関が「202●年ごろが危ない」と言うのは、中国への牽制の意味を込めた発言。バイデン大統領はウクライナに

ついて早い時期に「米国は軍事介入しない」と断言し、ロシアの侵攻につながった面も。だから、台湾有事の際に米国は軍事介入するのかと問われると、Yesという答えを繰り返す。中国に対する言葉による抑止力。複雑な駆け引き続く。

- 北朝鮮の頻繁なミサイル発射、核実験再開の動き。国連安保理が機能マヒ、中露の反対で追加制裁なしだからツッパリ続く。

5月の広島サミット、課題は何か

- 5月19～21日にG7広島サミット。岸田首相はウクライナのゼレンスキー大統領のリモート参加を要請。韓国の尹大統領、インドのモディ首相はリアルで招待。
- G7の枠組みなら、ウクライナ支援の継続拡大でまとまりやすい。北朝鮮のツッパリをすぐ止める手立てはないが、ミサイルの脅威への対応は待ったなし。弾道ミサイル撃墜は簡単ではなく、安保面での日韓連携の回復、日米韓連携の強化は緊急課題。
- G7とG20をつなぐ岸田首相の目標は、中露も含むG20のメンバー構成ゆえに難しいが、インドとの連携強化は日本外交の重要課題。先週の岸田首相の訪印に続き、林外相は今週末に訪中。米中対立時代の中国との距離感は継続課題。

世界の変化と日本の影響力

- かつてG7の中で日本は「アジアの代表」的な意味付けもあった。しかし、今では中国のGDPのほうが日本よりはるかに大きいし、インドのGDPも英国を抜いて、これから日本に近づく。2000年に日本の13%ぐらいだったASEANのGDP合計が、今や日本の6割超になり、2030年には日本のGDPを上回る見通し。
- 2000年代の国連改革の議論の時、日本はドイツやブラジルなどとともに、安保理の常任理事国入りの意欲を示した。だが、「米国と同じことを言うだけなら、常任理事国になる必要はない」との批判もあった。その後の経済力の変化を考えると、これからアジア代表として支持されやすいのはインドとASEAN代表のインドネシア。
- 日本には文化のソフトパワーがあり、どの国からも好かれやすいが、世界の中で存在感と影響力を保つには、経済力が欠かせない。



例会日・木曜日 12:30~13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会長 新原 靖
幹事 古本 竜一

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail : hwrc@godorc.gr.jp

作成・会報雑誌・広報委員会

広島西RC

検索

